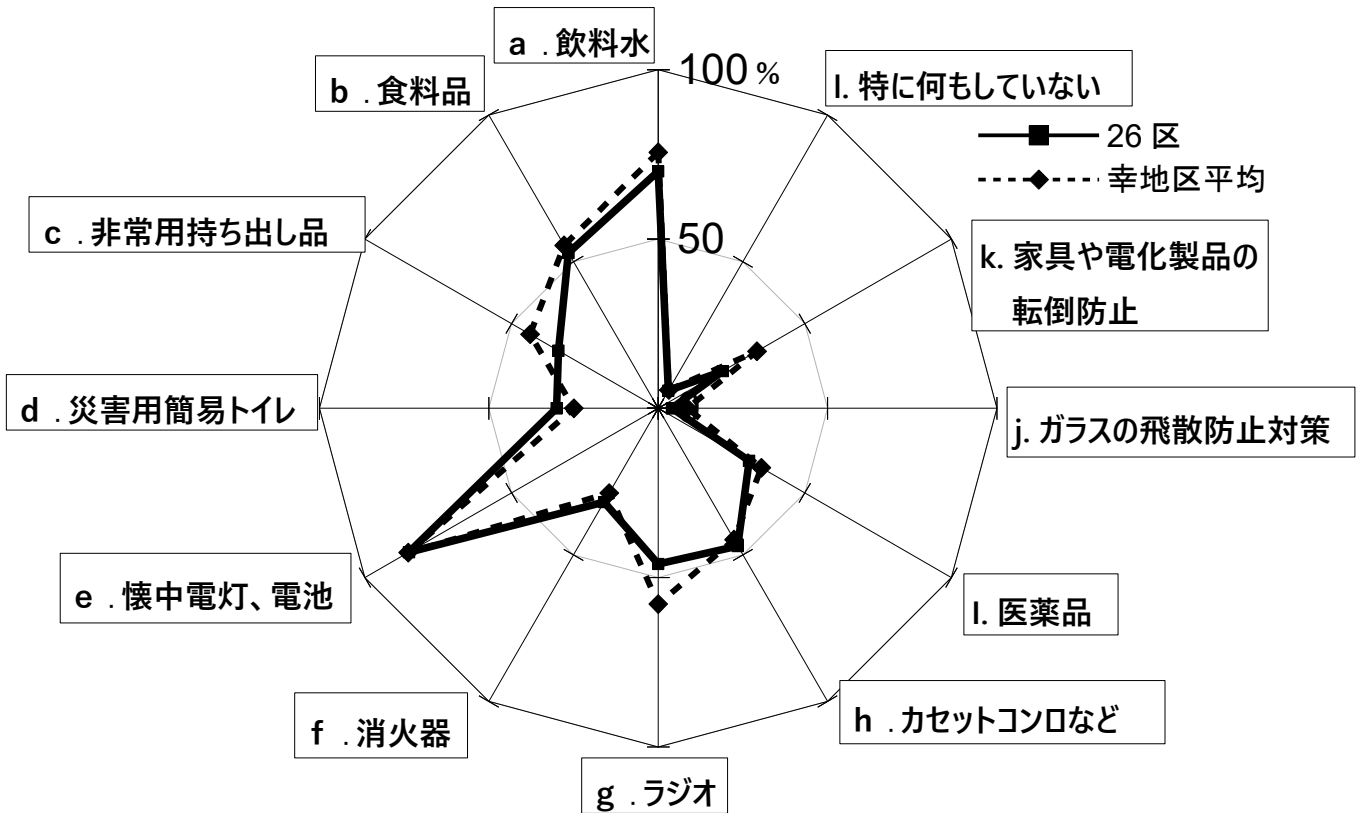


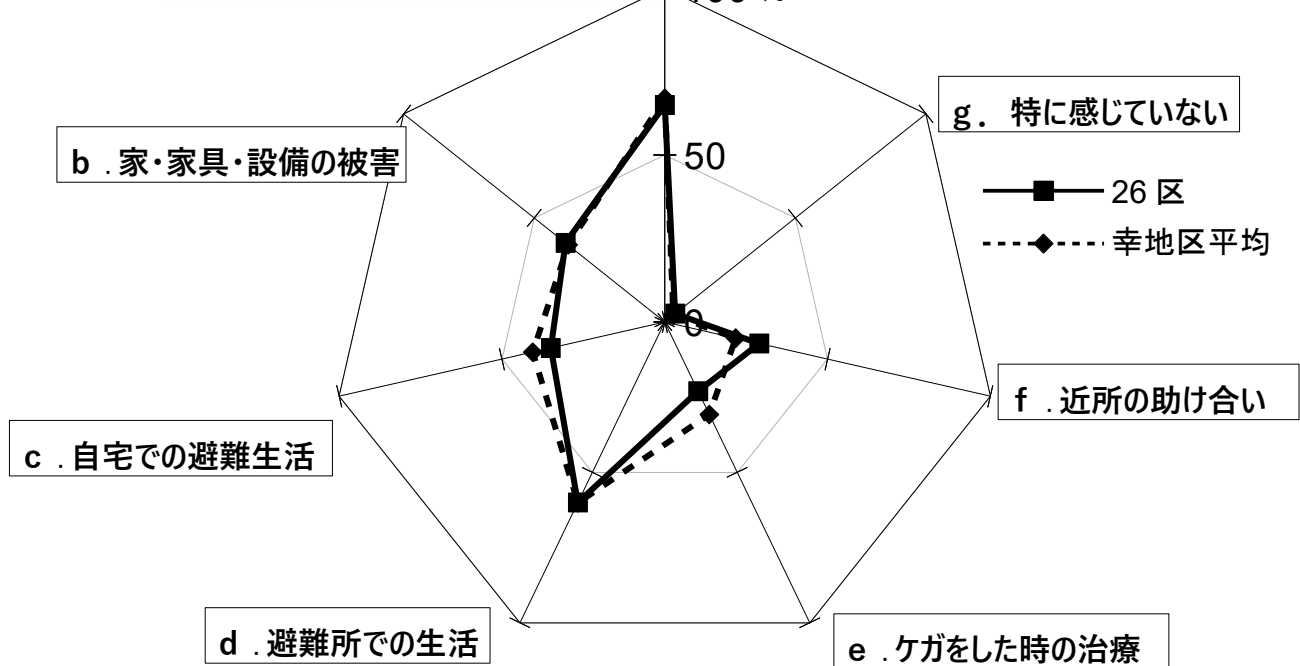
設問(1) あなたは、自宅でどのような減災対策および備蓄をしていますか？(複数回答可)



コメント: 幸地区全体と比較して、分布は同じようですが転倒防止等の備えが弱いので、さらに周知と対策実施の促進を行う必要があります。

設問(2) あなたは、今後、大きな災害が発生した場合、どのような点について不安を感じますか？

a. 家族の安否がわからなくなること (複数回答可)

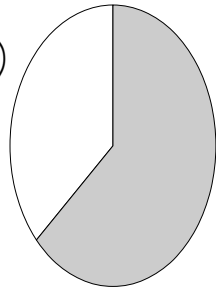


コメント: 近所の助け合いについては、幸地区平均より高いですが、今後単身老人世帯の増加も予想されることから防災対策については特に強化する必要がある項目です。

設問(3) あなたは、家族や身近な人との安否確認方法を決めていますか？

26区

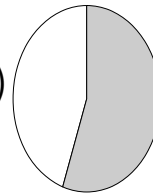
はい 33 (37%)



幸地区全体

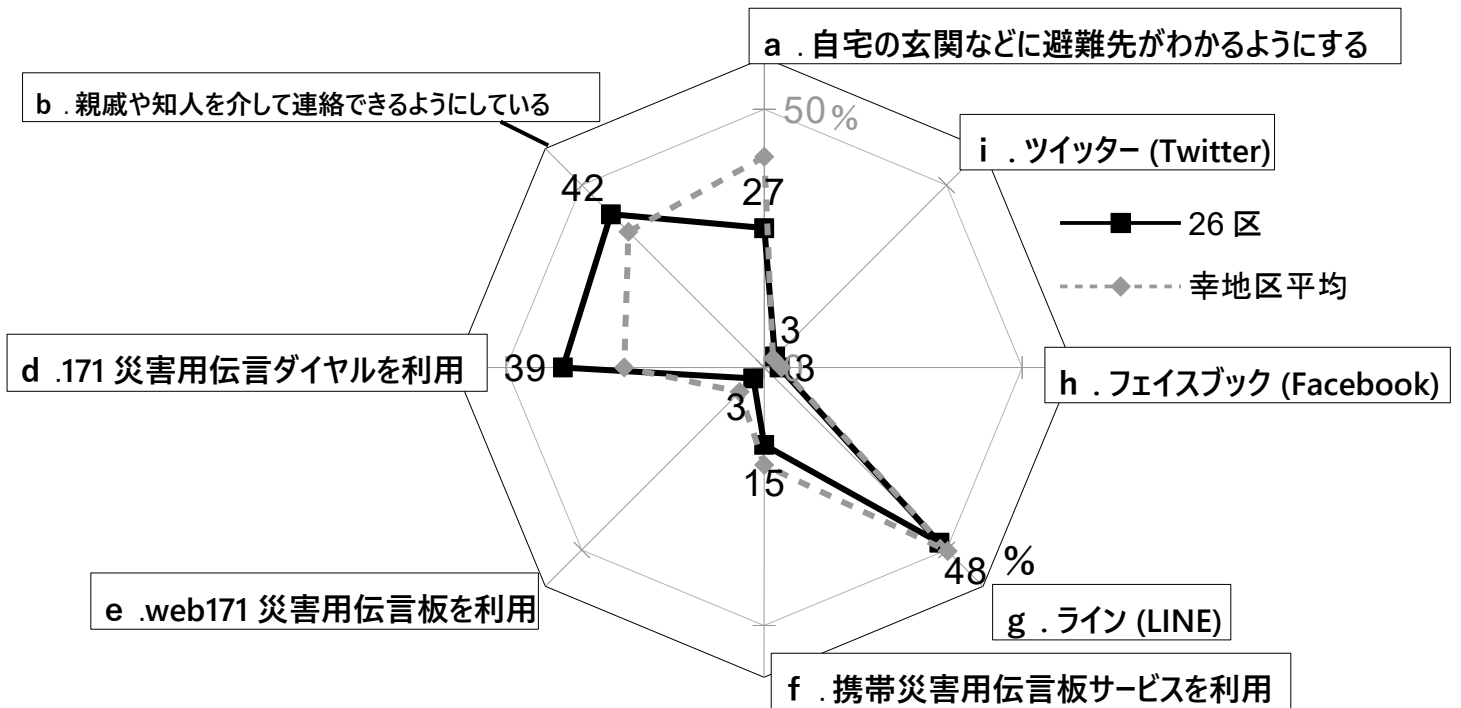
はい 328 (45%)

いいえ 406 (55%)



いいえ 57 (63%)

設問(4) 設問(3)で“はい”と回答の方、それはどのような安否確認方法ですか？



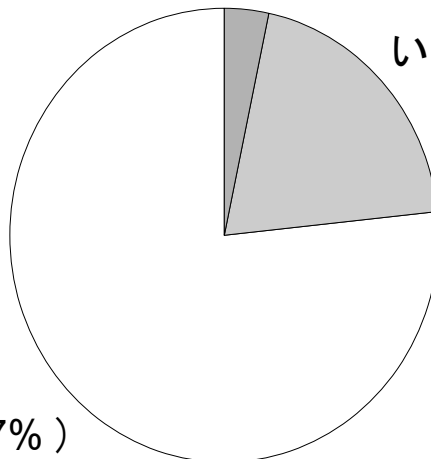
コメント: ライン・ツイッターの利用などについては、世帯の年齢構成にかかわらず重要な項目で、26区自主防災においても利用の周知をしていく必要があります。

設問(5) あなたのお住まいは、1981年耐震基準（昭和56年6月1日）以降に建築された家ですか？

26区

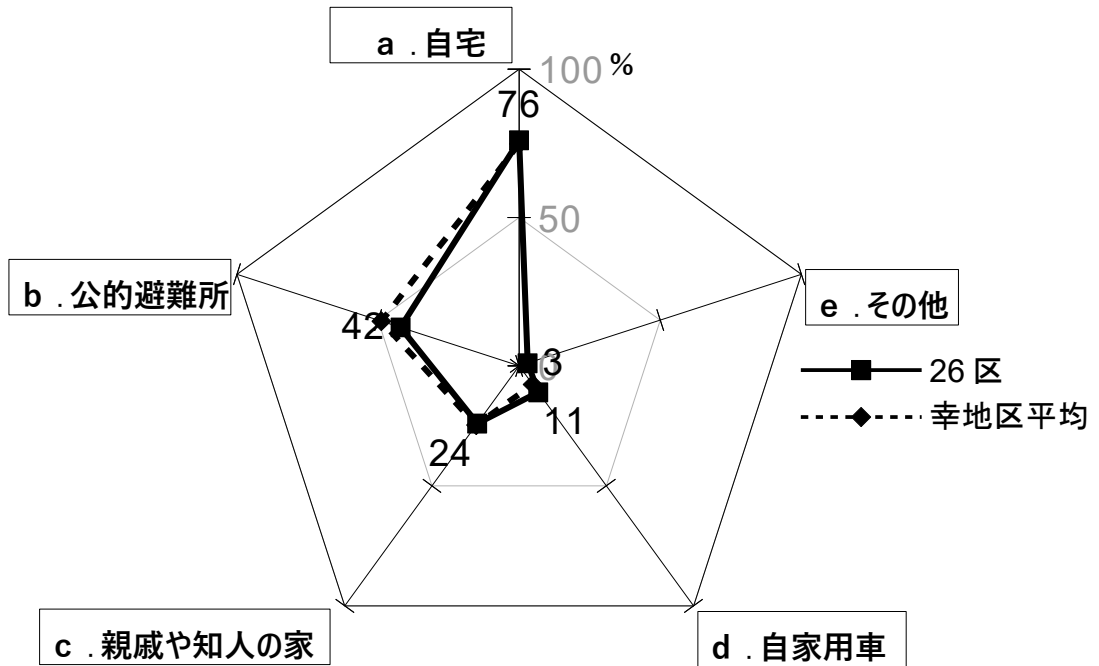
わからない 3 (3%)

いいえ 18 (20%)



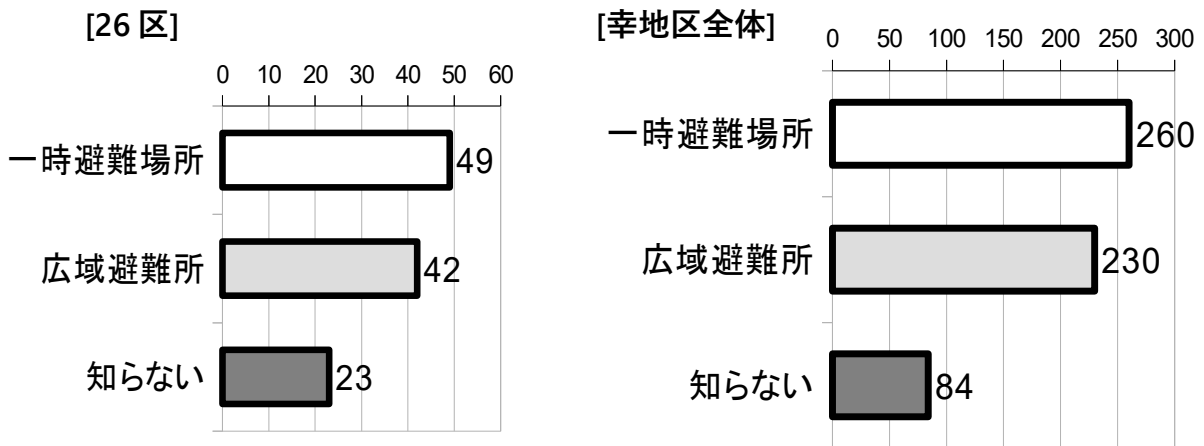
はい 69 (77%)

設問(6) あなたは、被災した後、どこで生活することを想定していますか？(複数回答可)

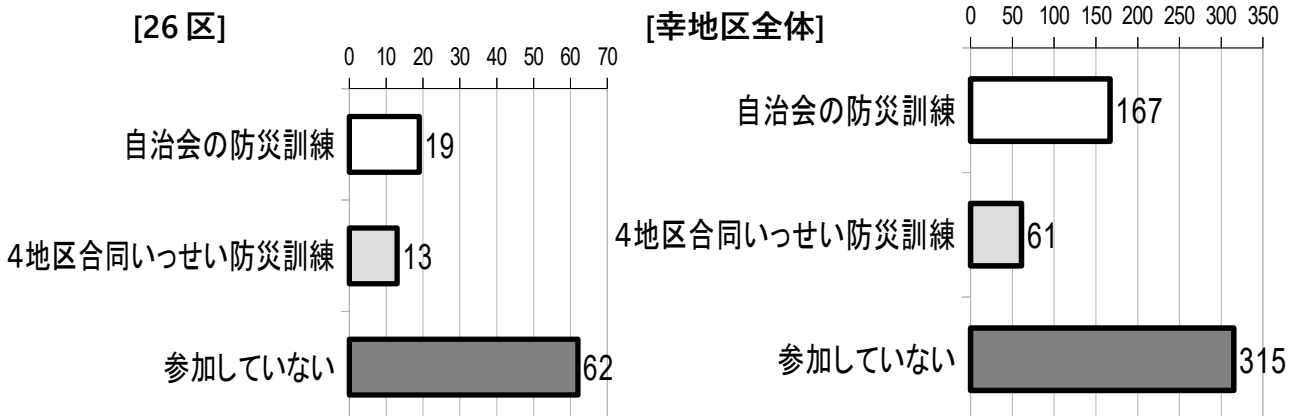


コメント：26区はマンションの方を含めて、自宅での生活を第一に考えている方が多いようです。災害が発生しても自宅ですぐ生活ができるように水・食料等を備えることが重要です。また、マンション防災として、停電によりエレベーターが使えなくなることを想定した備えも必要になってきます。特に自宅での避難生活を可能にするためには、家具の転倒防止策のさらなる促進を各世帯に告知するなどが重要です。

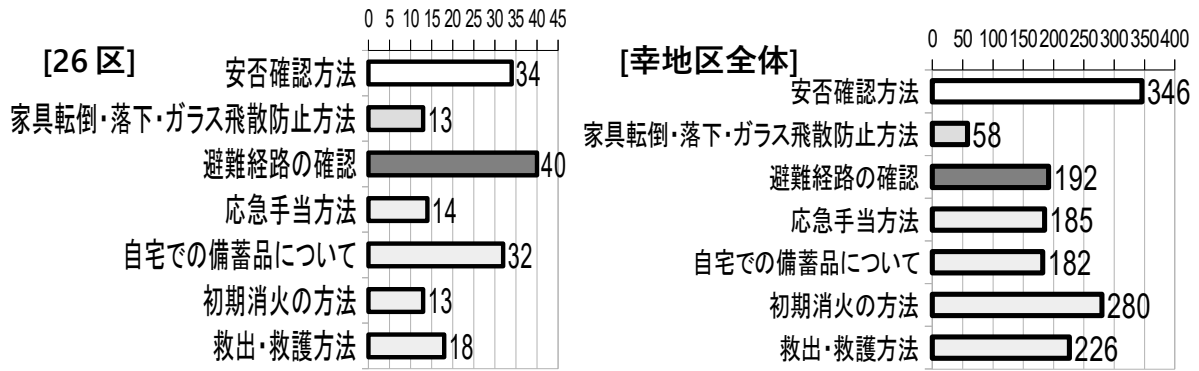
設問(7) あなたは、この地区の避難先をご存知ですか？(複数回答可)



設問(8) あなたは、昨年どんな防災訓練に参加しましたか？(複数回答可)

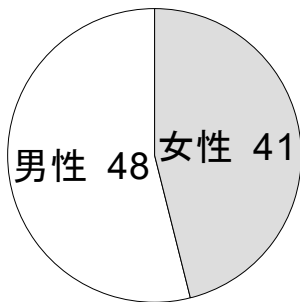


設問(9) あなたは、今後どのような防災訓練を実施して欲しいですか？(複数回答可)

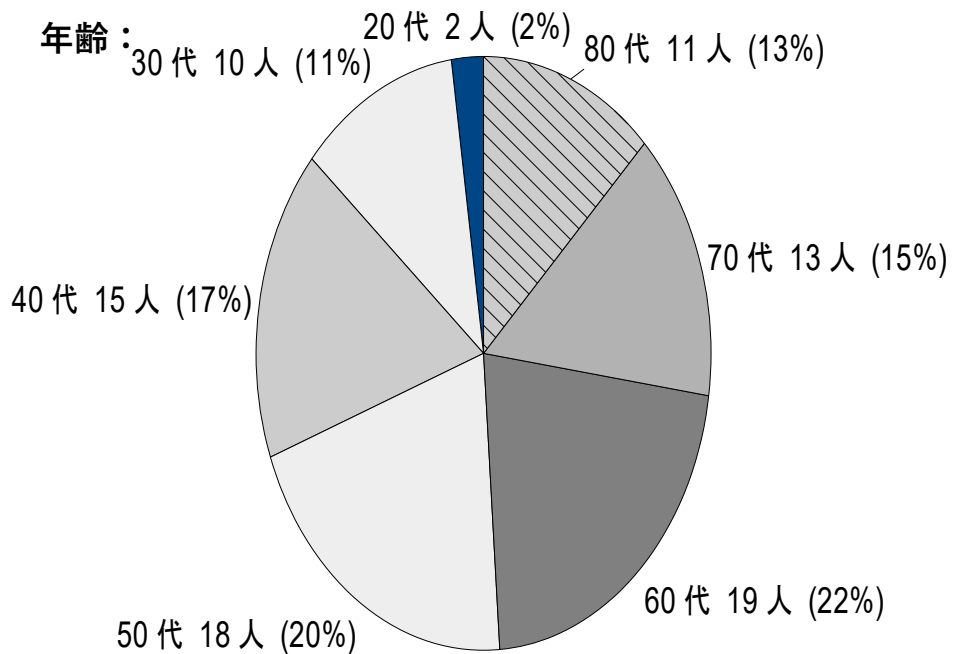


設問(10) 回答された26区の方について教えてください

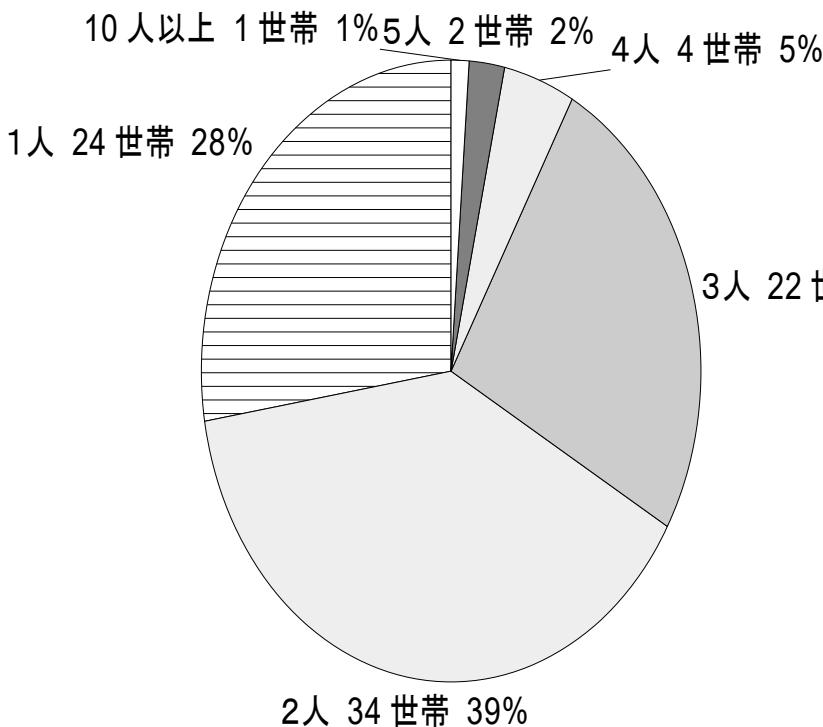
性別：



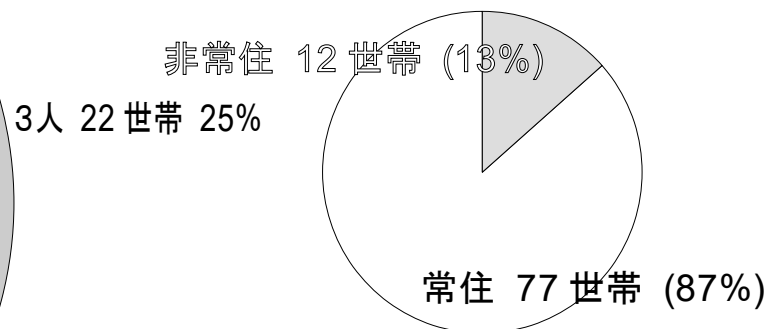
年齢：



世帯人数：



居住状況：



合計	
世帯数	135
回答数	91
回収率	67%

